

第18回国民文化祭 長井の黒獅子が舞う no1



全国から 14 の獅子舞が繰り広げられる国民文化祭、長井市は黒獅子と川柳の会場となった。特に黒獅子は、長井市の独自の文化を感じさせるもの。最初は小出の皇大・白山神社、秋晴れの晴天の下にいざ出陣。

太鼓の響きと、甲高い笛の音色、まさに長井の文化だと思う。思わず鳥肌が立つ感じ。開示ようを埋め尽くした市内外の観客から大きな感歎のため息が聞こえる瞬間だ。



小出の獅子舞は毎年9月14日15日の両日開催されている。2日間のうち一日は皇大神社から、一日は白山神社から出る。獅子舞は保存会で保存されている。



二番手は和歌山県古座町からの出演で古座獅子舞保存会の出演、こちらではあまり見かけない獅子舞に観客は見入っていた。
南紀熊野地方の獅子舞の源流とも言われている。獅子頭は赤漆塗りの桐の一刀彫りでできている。頭部の毛は雌獅子というこゝとで馬の尻毛を用いている。

石岡市の獅子舞重さ16キ口の獅子だ



昭和五十五年には茨城県の無形文化財に、平成四年に獅子頭は県の有形民族文化財の指定を受けた。獅子頭は幕でつながれた獅子小屋からなる幌獅子が練り歩く。





4番手の獅子舞は、福島県原町市の押釜青年団によるもの。天明の飢饉疲弊した地区に移民の導入が計られ、復興機運を盛り上げるため神楽の奉納が始まったとされるが正式な記録がない。



5番手の獅子舞は山形県酒田市の亀ヶ崎獅子舞保存会だ。慶長から宝永・正徳年間ころまで奉納されていたが、獅子頭の痛みや寺の困窮などで一旦中止されていた。しかし、最上川がたびたび氾濫し、安永年間に観音堂改築の際、古い獅子頭が発見されたのを機に再考の機運が起こった。酒田といえば赤い大きな獅子頭が有名だが、現在は鵜渡川原春祭りに上演され、行列時のとり神楽の笛や太鼓は他では聴くことができない古典的なものである。舞は、白鳥のごとき優雅な舞で、天狗舞の笛や太鼓がいかにも天狗が空を飛ぶような極である。(フェスティバル資料より)



6番手は、石川県河原市町瑞穂獅子舞保存会だ。「エイヤー」「ハー、ヤー」威勢のいい掛け声とともに男集が剣を振る。獅子は形相を変え、頭を左右に激しく動かし、襲い掛かる。加賀獅子は、全国の獅子舞の中でも勇壮な演舞で知られる。加賀百万石城主「前田利家」公が入場の折に獅子舞が行われていたとも言われている。剣士(棒振り役)が白木彫りの獅子頭を持つ獅子約に戦いを挑んで、最後に獅子を討ち取るという勇壮華麗な演舞が披露される。



白兔葉山神社は、古代山岳信仰の山の神として葉山に祀られ、葉山権現とも称された。